

緑多い景観は 心地よく暮らす 街の条件

以前にも書いたように思うが、通勤族の人たちが、数年間の札幌生活を経て、道外にまた通勤されるときに「札幌は本当に住みやすかった」というのを何度か聞いたことがある。冬の雪や寒さを楽しむまたは気にならない人の感想かもしれないが、山や海も1時間もあれば行けるし、市内には有数の温泉地もある。中心街も電車で移動せずとも歩ける範囲に集まっている。

そんな感想を耳にして思うことがある。札幌の街の中に緑が多いということだ。中心街に位置する植物園や大通公園、道庁や知事公館、近代美術館、中島公園、そして北海道大学などは札幌という街を語るときに大事な役割を担っているのではないか。大きな街であっても、広い大地である北海道の豊かな自然を感じられて、目に入る緑の多い景観は、知らない間に心地よさを訪れた人たちに提供している。

今年は北海道でも今までにないくらいの暑さに見舞われた夏であった。気温が30度を軽く超えた日、知事公館の庭の木陰でゆっくりランチを楽しむ人や本を読む人を見かけた。近隣の保育園の子どもたちも遊んでいる。大きな木の下をくぐり、小さな小川の橋を渡り、三岸好太郎美術館へ。小さくとも自然がそのまま残る場所だ。自然は厳しいときもあるが優しくもある。願わくば緑が多く残るこのような場所がこれからも人びとの憩いの場所で、心地よさと自然を身近に楽しめる街でありつづけますように。そして、それが北海道の中心都市の誇れる街の表情でありますように。





すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: さざやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。